

お盆号

平成十八年盛夏

## 暑中お見舞い申し上げます

### 香の功德

住職 奥村孝司

某お寺を始め、最近立派に堂宇を新築したり、改修したりしている寺院が気になっている。

「このお寺も、お寺くささがなくなっているのではないのかと云うことである。くささには、味だとかセンスも含めて本来のお寺が持つている機能であり、信仰の大元である。お檀家が集い、ご先祖を慕いそこに信仰がある。お寺の風景もそんな意味では変わりつつあるのだろうか。」

「御免ください！」とそのお寺にお邪魔した。住職の手厚い接待を受けた。

至れり尽くせりの仏具・什具の数々。ご本山からのお礼状、地域社会からの感謝状。

「チョット待てよ？なにか足りない。なにか感じない・トイレに行けば、その寺(家)の全てがわかるというではないか」 時を過ごし、失礼してトイレを借りた。芳香剤特有の香りたどよう臭いだった。どこかのホテルの一室かと思う位臭い。匂いとは程遠い。衣服にまで突き刺さってくるような臭いだった。

ここはお寺である。お寺には御香といふ素晴らしい香りがあるではないか。

香老舗松栄堂の十二代目当主畑正高氏曰く、「人間の五感を再構築する手段の一つとして、普遍的な「香り」というものが評価される時代の到来を痛感している」と喝破している。

また、小林一茶が香には十の徳があると云う。

- 一、鬼神を官能させる
- 二、心身を清浄する
- 三、毒を除く
- 四、眠気を覚ます
- 五、一人の時には友になる
- 六、忙しいときに閑をもたらす
- 七、多く使っても役立つ
- 八、少なく使っても役立つ
- 九、永く保存しても腐らない
- 十、常用しても差し支えない

お寺で常用している香木(代表的な香り三種(キヤラ、白檀、沈木))は、草が多いハーブの花、実、茎、葉、根ではなく木の樹皮や根が主になり、環境に優しいのである。それは、伐採している木ではなく木が朽ち、倒れ、そこに微生物が発生し、そこから独特な香りをもし出すからである。

いづれにせよ、香の効用によって、肉体と精神のバランスのとれた健康体を保ち、歳を重ねても頭脳明晰で有りたいたいものである。そんな智恩寺庫裡を皆の力で造り上げたい。香を聞いてみるといい。

お墓掃除終わる  
去る7月30日に墓地檀家さんを中心にお墓掃除が行われた。お盆の棚経は8月13日です。精一杯のお持て成しでご先祖さまをお迎えしましょう。



### 束の間の休息(7・30)

釈尊の入滅後、弥勒仏の出生するまでの間、無仏の世界に住して六道の衆生を教化、救済するといふ菩薩像は、胎蔵界曼荼羅地蔵院の主尊は菩薩形に表されるが、一般には比丘形で左手に宝珠、右手に錫杖を持つ形が流布。中国では唐代、日本では平安時代より盛んに尊信される。子安地蔵、六地蔵、延命地蔵、勝軍地蔵などもあ。地蔵、地蔵尊、地蔵真言「おんかかかびさんまへいそわか」と唱える。道端に必ずといっていいほど像があり、各地で広く奉られています。その割りに地蔵菩薩のことを詳しく知る人は少ないのでは無いでしょうか？ 仏教の考えでは、今の世は釈迦如来が入滅したために如来様がおられない世の中だと。その為に人々の魂は救われぬ、これを救うとされるのが弥勒菩薩です。弥勒は次の如来となるべく、天界でパワーをためている最中です。この間、地上の魂を救済する役目をおっているのが地蔵菩薩です。「仏の顔は三度まで」ということわざがありますが、これは地蔵菩薩には当てはまりません。数々の人々の救済の説話で、何度も改心しない悪人も改心するまで救いの手を差し伸べています。お地蔵さんが見ている、ちゃんと見ている、きくと見ている。そんな智恩寺のご本尊さま。



一段落・ やれやれ・・・ (7・30)

庫裡建設委員会より毎月のご寄付心より御礼申し上げます。着々と目標額へと歩んでいます。今後とも宜しくお願い申し上げます。



おらがご寺 智恩寺のご本尊 地蔵菩薩